



1高周波誘導炉で溶解された鑄鉄を運ぶ作業 2鉄道車両部品の数々 3会社の歴史や今後への思いを語る吉年社長 4消失模型鑄造法による鑄造のため、発泡スチロールの模型を組み立てる従業員 5薄い鑄物を製造するための鑄型

かわちながの ものづくり探訪

Made in Kawachinagano

作

16

創

創業300年、鑄物で 歴史を紡ぐ老舗企業

株式会社吉年

上原西町にある株式会社吉年は享保3年(1718年)、8代將軍吉宗の時代に創業、今年で300年目を迎える市内屈指の老舗企業。高野街道に面した三日市幼稚園(上田町)付近が創業地で、当時は釜をはじめとする農具、鍋、寺の梵鐘などを製造。明治37年に可鍛鑄鉄の製造を開始し、昭和19年から株式会社となっています。「豊かでゆとりある社会を支える」というのが、同社のキャッチコピー。「わが社はあまり目立たないが社会にとって重要な部品を製造しています」と吉年正守取締役社長

長は胸を張ります。同社が製造するのは水道管やガス管をつなぐ継手や自動車部品のほか、新幹線にも使われる鉄道車両の部品、鉄筋と鉄筋をつなぐカップラー、電力会社に供給する送電・配電用碍子金具などの鑄物製品が中心。「その多くは建物や鉄道の内部など、通常私たちが目に見えない所に使われる縁の下の力持ち的な製品です」と吉年社長。鑄物の製造方法は、鑄型に溶解した金属を流し込むという従来の方法のほかに消失模型鑄造法(ロストフォーム)という製造法も。これは目的に応じて加工された発泡スチロールの模型を乾燥砂の中に埋設することで鑄型とし、直接溶湯(溶解した金属)を注ぎます。発泡模型は高温で溶けた金属を流し込むと瞬時に消失し、直後に溶湯と置き換わる事で鑄物製品となります。同社ではこの方法で複雑な形状や薄い物など寸法精度の高

い製品を製造しています。「より良い製品をより安く、より早く」ということを徹底させ、お客様に満足を提供し、信頼を獲得することが経営理念の同社。「管継手は成熟製品で、競争も激しい。今後は大卒や国の研究機関と連携することで、高強度、耐高熱、耐摩耗を備えた高付加価値の製品にも力を入れていきたい」と吉年社長は語ります。同社は時代に即した製品を製造することで、これからも老舗企業の歴史を紡いでいきます。



株式会社吉年

可鍛鑄鉄の管継手をはじめ、可鍛鑄鉄製のダクトや自動車部品の自動車の部品・碍子金具など各種産業機械部品を製造・販売。
上原西町 16-1 ☎53-3121
http://www.yodoshi.co.jp



▲鉄筋コンクリート用カップラーは北陸新幹線や新名神高速道路の基礎や橋脚の鉄筋に使用されています。